


文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel 0776-82-1141 Fax 0776-82-2261  
【斉藤新緑事務所】〒913-0046 福井県坂井市三国町北本町2-1-20 京福三国ビル2F  
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp  
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

# ほっとらいん



人に、まちに、いま、  
元気の種をまこう。

## VOL.61

### 牛になる事はどしどししても必要です

「金融危機の震源地は米国」といわれてきたのに、今や米欧以上に日本の経済指標は悪化しており、どちらが危機の本家本元かわからなくなってきました。

熊本から東京の大学に入る身「亡びるね」と一〇〇年前にために上京する主人公の三四郎が、たまたま乗りあわせたとヒゲの男(広田先生)に、日露戦争に勝つて、一等国になつたから、是からは日本も段々発展するでしょう」といふと、逆に、その男は「亡びますね」といってニヤニヤ笑つたという記述があります。

とだと思っていました。「文明」というのは世に言われているようなすばらしいものではなく、文明が進むほどに人の孤独感が増し、救われがたくなつていく。夏目漱石の弟子である芥川龍之介は、将来に対する「ぼんやりとした不安」で自殺してしまいましたが、金次第の世の中になつていく資本主義に疑問の目を向けながら、引きずられていかねばならないことに絶えられなかったのかもしれない。

滅ぼすところまでできてしまったともいえます。「牛になる事はどしどしでも必要です、吾々はとく馬になりたがるが、牛には中々なりきれないです。僕のような老獯なもので、只今牛と馬とつがって孕める事ある相の子位な程度です。」

「亡びるね」という声  
夏目漱石は、明治四一年(一九〇八)年に小説『三四郎』を書いています。

漱石は「ロンドン留学」で、西欧文明を如実に体験したっており、西洋文明、とりわけ近代合理主義に基づいた魅惑的な物質文明は、極めて危険であることを見抜いており、これを無批判に受け入れることは、日本にとって良くないこと

世の中は根氣の前に頭を下げる事を知っていますが、火花の前には一瞬の記憶しか与えて呉れません。うんうん死ぬ迄押すのです。それ又です。決して相手を拵らへてそれを押しちゃ

あせつては不可せん。頭を悪くしては不可せん。根氣づくでお出でなさい。

今からちょうど一〇〇年ほど前のことです。

廣田先生を借りて、漱石自らは、日本にとって良くないこと

人間の心や魂の世界が置き去りにされてしまった。

不可せん。相手はいくらでも後から後からと出て来ます。そして我々を悩ませます。牛は超然として押して行くのです。

#### すみれ 董ほどな

### 小さき人に生れたし。

・夏目漱石



一番大切なことは、未来に向かって希望を持つということだ。なんとかが、人類の未来に確固たる希望を見つけたい。

人類が危機に陥っているのは、多くの人が未来を切り開く意欲を失ないつつあることだ。

未来を切り開くといつても、単にお金を得たいというような目の前の目標しかない場合が多い。人間の本当の幸福とは健康と環境に恵まれ、肉体的にも精神的にも解放され活力に満ちることだ。それはお金だけでは得ることができない。

本物の自然、本物の健康、本物の愛情、そして、精神的豊かさこそは結局、人生の最高の宝物だ。

現在の金融のしくみは、有限の地上において無限の成長を強制するものであり、行き着く果ては、環境的破綻か、経済的破綻か、必ず破局がやってきます。それは恐慌だつたり、戦争だつたり。

人間の「食欲」「支配欲」「悪かさ」が作ったものは、世界を

(一九一六年(大正五年)八月二四日、夏目漱石が芥川龍之介・久米正雄にあてた手紙。漱石はそれから四カ月足らずしか生きていなかった。)

漱石は、社会のテンポに焦らず、牛のように、ひたすら根氣よく前進することが大切という助言をしたのです。

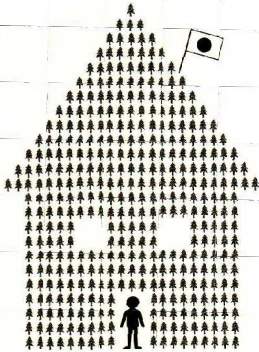
文明と木のCO2



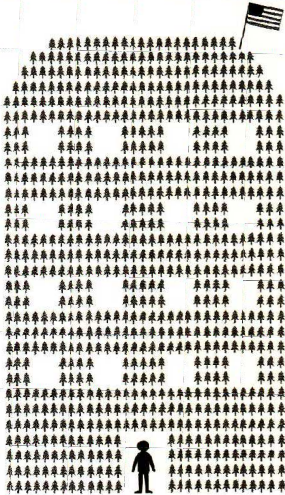
ただ単に人間が呼吸する分のCO2吸収は、約15本の木でよい



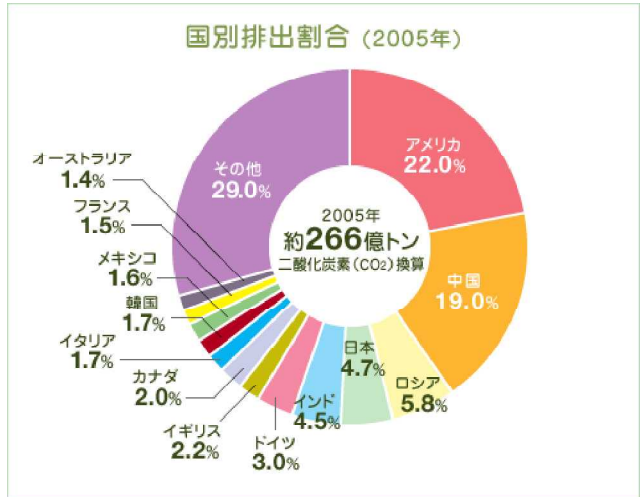
インド人一人が生活する時に出るCO2を吸収する為には、木が約44本必要



日本人一人が標準的生活(かなり文明的な生活だが)をする為に出すCO2を吸収するには、約376本の木が必要



アメリカ人の文明的な生活が、木のCO2の吸収力にいかにか依存しているかがよく解る。一人当たり約792本の木が必要である



# 世界大恐慌

# 世界はアメリカの過剰消費に支えられていた

## 人類は寄生生物

人類は附属(寄生)栄養生物でしかなく、木をはじめとした植物は自家栄養生物だという。

つまり、自家栄養生物である木は人類なしでも生きられるが、附属(寄生)栄養生物である人類は、木や森なしでは生きられない。

言うまでもないが、人類をはじめとした動物は、自分が排出したCO2(二酸化炭素)を植物(木)にO2(酸素)に変えてもらい、それを吸収しないことには生きて行けない。

## CO2の吸収と木の関係

人間は酸素(O2)を吸い、二酸化炭素(CO2)を出す。植物である木は逆に光合成でCO2を吸収し、O2を出してくる。それでは人間が一日の呼吸をまかなうのに木が何本必要だろうか? 計算してみると約15本といことになる。勿論、木の種類や育つ状態にもよる、かつ木も「呼吸」も行なうので、23本くらい必要だという計算もある。いずれにしても人間は木なしには生きられない!

ところが、現代人は文明の中で暮らしており、生活の中でガスや石油を使い、金属やプラスチックの製造過程で相当のCO2を排出する。その結果、日本人一人の文明的生活をささえるためには、376本の木が必要になってしまふ。

## 最大のお客様が破産した

以上、アメリカの化石燃料消費量の大きさを環境問題から見てもしたが、これを「経済」という観点から見ると、アメリカは世界一の大量消費国ということであり、世界最大の市場(売り先)であったといふことです。

アメリカの住宅バブルがはじけ、アメリカが金融危機を起こしたことが、なぜ、これほどまでに世界中に深刻な経済危機を巻き起こしているのかといえ、ほとんど借金をしてまで、次から次へとモノを買っていった浪費癖のある最大のお得意様が破産してしまつて、売り先がなくなったからに他なりません。

「薄利多売」、大量生産、大量販売というのが、グローバルビジネスの特徴で、需要がなくなれば、在庫も大量に発生し、販売量も激減します。

に世界中に深刻な経済危機を巻き起こしているのかといえ、ほとんど借金をしてまで、次から次へとモノを買っていった浪費癖のある最大のお得意様が破産してしまつて、売り先がなくなったからに他なりません。

「薄利多売」、大量生産、大量販売というのが、グローバルビジネスの特徴で、需要がなくなれば、在庫も大量に発生し、販売量も激減します。

米国の消費がけん引役となつてもたらされた世界同時好況という稀(まれ)な状況は、いま急激な逆回転となり、世界同時不況というこれまで稀(まれ)な状況が出現しています。

何だかんだ言つても、世界はアメリカ一國の過剰消費によつて支えられていたといえます。

生産の急降下の底はまだ見えませんが、これを受けて、もっとも懸念される雇用悪化も数字になつて現れ始めた。雇用対策に特に力を入れながら、必要な政策を迅速に講じていく必要があります。しかし、その処方せんを描く際に必要なのは、現状の見極めとあわせて出口の展望、すなわち危機を脱したときに日本経済がどんな姿であるべきかを見定めることです。

その金融商品も信用を失い、金融ビジネスも破綻しました。国境を越えて世界を一つの市場として金やモノや人が自由に行き来するグローバルゼーション、誰も規制せず、野放しにしておけば市場はすべてうまく行くという市場原理主義、アメリカ主導の経済が破局を迎えたことは、大きな文明パラダイム(枠組み・価値観)の転換期を迎えたといえます。

世界経済は、たとえ危機を脱したとしても危機前の状況に戻ることはなく、世界経済のひとつのステージが終わつたといえます。日本が世界経済の次なるステージでどのような位置づけになるかを強烈に意識しておかねばなりません。

その金融商品も信用を失い、金融ビジネスも破綻しました。国境を越えて世界を一つの市場として金やモノや人が自由に行き来するグローバルゼーション、誰も規制せず、野放しにしておけば市場はすべてうまく行くという市場原理主義、アメリカ主導の経済が破局を迎えたことは、大きな文明パラダイム(枠組み・価値観)の転換期を迎えたといえます。

世界経済は、たとえ危機を脱したとしても危機前の状況に戻ることはなく、世界経済のひとつのステージが終わつたといえます。日本が世界経済の次なるステージでどのような位置づけになるかを強烈に意識しておかねばなりません。

百年に一度の危機と言っ  
けれど

「百年に一度の危機」

「この言葉さえも独り歩きして、  
世界は急速に縮小に向かってい  
ます。」

信じられないほどの下降。  
あつという間に押し寄せ津波  
に飲み込まれるように有無を言  
わずに消え去る経済主体。失  
業と倒産。

「不況だから新たな経済政策」  
をとこれまでの延長線上の古い  
政策を採用しても資源だけが失  
われていきます。

これは単なる不景気ではなく  
「崩壊」なのだと思います。  
金融カジノ主義の危険をどん  
なに叫んでも「儲けているから  
いいではないか」と聞く耳を持  
ちませんでした。

その人たちが、百年に一度な  
んて言っていますが、それでは  
前の百年に一度は何かといつて  
も答えられません。グリーンズ  
バンFRB元議長の議会での  
言葉をオウム返しに言っ  
ているに過ぎません。

虚構の中に作り出した利

益が吹き飛んだだけです。

命を育むこと、絆をつくるこ  
と、子どもたちを育むこと、本  
来の人の営みに価値を戻すこと  
ができれば、負のスパイラルを  
断ち切ることが出来ます。

百年に一度の希望でもあるこ  
とを、政治家は言うべきだと思  
います。

ただここに来て気になるのは  
再び大幅な財政出動で小手先の  
景気回復を図ろうとする動きで  
す。自由化された経済の中では  
一國が財政政策のみを行っても  
その効果は限界があるのみなら  
ず、逆に財政的資源を失ってし  
まって窮地に立たされてしま  
います。

旧来型の政治の発想そのもの  
が転換しなければ経済の回復の  
足を大きく引く張ることになり  
かねません。

現状では、景気対策は必要で  
すが、高齢者にしてみれば、明  
日の社会保障財源を担保に今日  
の景気対策を行っているように  
見えます。世代会計の観点で考  
えれば、日本の将来世代負担  
は、他の主要国に比べずぬけて  
重く、日本の新生児は二度産声  
を上げる(一度目は呼吸、二度  
目は負担の重さへの絶望で)と  
言われるほどです。これでは、  
少子化対策に逆行します。

医療・年金・介護という高齡  
化三経費増大が不可避の中で、  
国民は今後も公的サービスを受  
け取ることが出来るのだろうか。  
団塊世代も、12年度から次々  
に六十五歳を迎え、年金給付額  
はさらに増加する。17年度から  
は七十歳代に突入し、医療費も  
急増しよう。こうした国民の中



# 新緑の眼

## 百年に一度の希望を語りつ

長期の不安を解消せずに、埋蔵  
金頼みの大規模な景気対策をこ  
れ以上行っても、かえって逆効  
果となる危険があります。

昨年末、税制の中期プログ  
ラムが閣議決定されたのは、こ  
うした国民の不安に応えようと  
するものでしょうが、当面の景  
気対策が奏功するためにも、中  
期的な展望にたった財政規律の  
確立が不可欠であることはい  
うべきです。(富田俊基)

スウェーデンの通訳として  
紹介していただいた高見さんと  
いう女性環境アドバイザーが次  
のように語っています。

スウェーデンと比べ、日本で  
政治家や自治体や企業からビ  
ジョンを聞くことが非常に少な  
いと思いました。常に現状の問  
題を説明し、そこから改善を約  
束するという形で「それでどう

なるのだろう」

という疑問が残った場合が多  
かったのは否定できません。  
「来年のことを言うと鬼が笑  
う」などと行って、あまり先の  
ことは話さないし、また、ヨー  
ロッパのように哲学的なことも  
照れくさく話さないと聞きま  
す。

それは、一般市民のレベルで  
は構わないかもしれませんが、  
政治家、行政、企業の決定者の  
立場にある人にはビジョンが欠  
かせないと思います。ビジョン  
は目標であり「建前」ではあり  
ません。

一歩一歩その目標に達するた  
めに努力し近づいていくもので  
す。

スウェーデンにつきのような  
ことわざがあります。  
「月を目標にすると木の頂上に  
届くだろう。しかし、木の頂上  
を目標にすると木の一番低い枝

にしか届かないだろう」

「ここに行くのかわからなかっ  
たら、とんでもないところに行  
きつく可能性がある」

スウェーデンの政府にも、先  
進的な企業や自治体にもビジョ  
ンがあります。それが、どんな  
に遠い先のことであっても、目  
標があるのとないのでは違つと  
思います。政治家の場合は、今  
の問題から視点を上げ、もっと  
先を見て、一世代後、どうある  
べきかその姿を描いてほしいと  
思います。

たとえば、「2025年後には大  
きな環境問題は解決できた、汚  
染のない持続可能な美しい日本  
を次の世代に渡す」と首相が宣  
言し、「一世代後には、空気がき  
れいで、川で泳げ、生物の多様  
性豊かな緑の森がいついばある  
東京にしたい」というビジョン  
が必要不可欠なのです。

があれば、そこから希望が生  
まれてくるのではないでしょ  
うか。それは、企業でも同じ  
だと思えます。

企業にビジョンと長期目標  
がない場合ISO14001  
の規格を取得したことでだけ  
満足してしまうかも知れませ  
ん。だからこそ企業は、持続可  
能な社会を目指す過程におい  
て、どのような製品やサービ  
スを売っていく会社でありたい  
かというビジョンをもつことが  
重要です。

その未来に高い目標があれ  
ば、つぎからつぎに新しいアイ  
デアが生まれ、発展していくと  
思います。

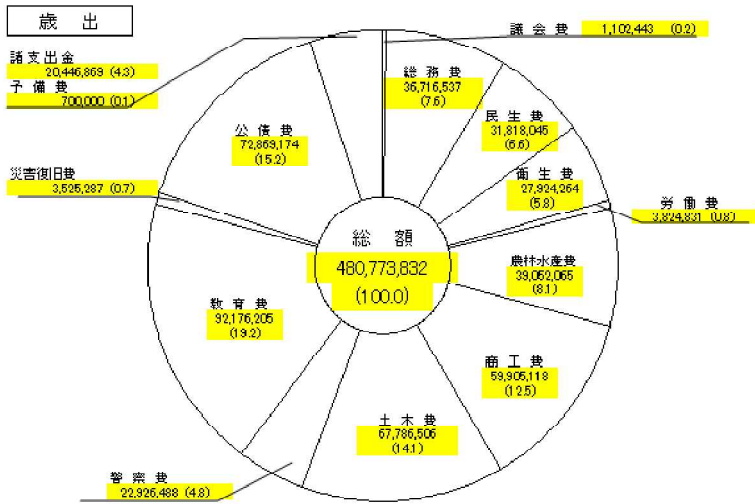
「ビジョンを描くこと  
ビジョンを描くとは、想像する  
ことです。」

「ビジョンがあれば何だつて実  
現できると信じているわけでは  
ありませんし、行動を伴わない  
ビジョンは役に立ちません。」

しかし、ビジョンを欠いた行  
動では、方向性もなければ力も  
ありません。指針を示し、やる  
気を出させるために、ビジョン  
が必要不可欠なのです。

「ビジョンが幅広く共有され、  
しつかりと見えていれば、新し  
いシステムをつくり出すことが  
できるのです。」

## 今こそビジョンを示せ



**平成21年度予算の解説**

1 予算の全体像

**21年度の予算**

福井県の21年度の予算案の概要が明らかになりました。いよいよ県議会での審議が始まることとなります。厳しい景気状況の中、気を引き締めてしっかりと審議していきたいと思えます。

**予算の規模と特徴**

21年度の一般会計予算(企業局や病院など経営的な経理をする部門を除いた普通の予算)は、480.8億円。前年度から3.7%の増と平成10年度以来11年ぶりに前年度を上回る規模となっています。(円グラフを参照)

今回の予算は厳しい経済状況を踏まえ、多くの経済・雇用対策が盛り込まれています。また、当初予算に加えて今年度の2月補正予算も追加され、両者が一体的に編成されています。

今年度の2月補正予算が実際に行われるのは21年度になるため、21年度の予算の規模は実際には、490.8億円。前年度比5.9%の増と考えると、前年度に比べて、近年にない大型の予算で、使い道が気になるところでもありません。

各項目について注目するところとしては、経済・景気対策を中心とする今回の予算は、労働費と商工費が大きく伸びていることです。労働費は前年度に比べて約60%の

増、商工費は約44%の増となっています。(表を参照)

**経済・雇用対策の規模**

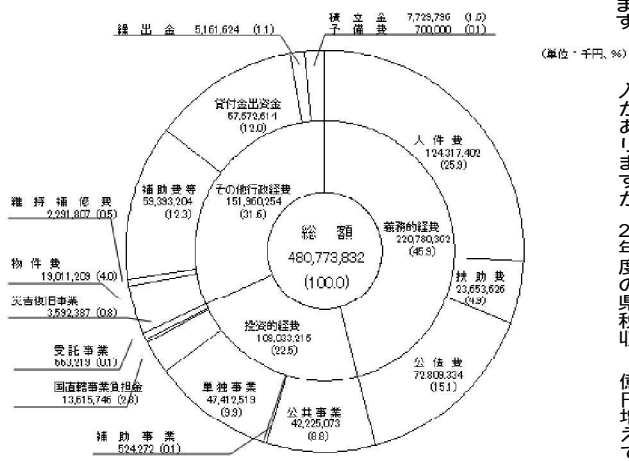
当初予算と2月補正予算を合わせた経済・雇用対策の事業規模は、740億円。予算の規模274億円である。事業の規模には中小企業等への融資枠が含まれるため、予算よりも大きくなっています。740億円が実際に効果のある額ということになります。

経済・雇用対策の財源としては、「ふるさと雇用再生特別交付金」「緊急雇用創出臨時交付金」という二つの交付金が交付されます。

県ではこの交付金を基金に積み立て、今後3年間の事業に当てていきます。

ふるさと雇用再生特別交付金は約42億円(市町分を含む)、緊急雇用創出臨時交付金は約17億円

性質別歳出予算構成表(一般会計)



(市町を含む)が交付されます。経済・雇用対策の大切な財源であるので、効果的に使われるように継続的に、審議・審査していかなければなりません。

**厳しい税収**

予算には歳入と歳出があり、経済対策などいろいろな事業は歳出の予算です。一方、事業を行うためには歳入が必要で、歳入の中心のひとつに県税収入があります。21年度の県税収入

入は、経済状況を反映して非常に厳しくなっています。昨年度と比べて、法人2税の減を中心に25億円減の906億円となり、平成11年度以来の大幅な減となる見込みです。

**税収が足りない分は、国からの交付税や県の借金である県債でまかなうこととなります。**

地方交付税は152.5億円と162億円増えています。税収の減少には足りず、県債発行は224億円増えています。また、県の貯金である基金を98億円取崩しています。

県の財政はますます厳しくなっております。今後の県財政が健全に運営されるかどうかをチェックすることは、県議会の重要な仕事です。しっかりと監視していきます。(円グラフを参照)

**2 予算の内容**

20年度の2月補正予算や21年度の当初予算に計上されている特色のある事業を拾ってみたい。

**経済・雇用対策**

今回の予算の第一の特徴は、景気・経済対策であり、次の4本柱が中心になっています。

- (1) 一万四千人の雇用を維持・確保する「雇用対策」
- (2) 経営安定資金の融資枠の550億円拡充などによる「中小企業の経営安定」
- (3) 前年比30%増の県単独公共事業の実施などによる「県内経済の活性化」
- (4) 学校施設等の耐震化の促進などによる「県民生活の安心確保」

**(1) 雇用対策**

失業者のために職業訓練の定員を倍以上に増やして、新たに介護系訓練コースを追加していく。さらに雇用保険の対象とならない人の訓練を対象に奨励金を支給する新たな制度を創設しています。制度の周知が重要で。

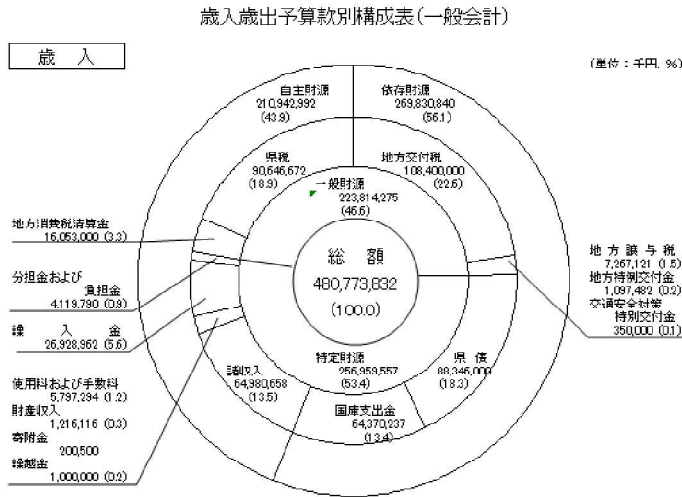
また、新たな離職者を出さないようにするため、福井県雇用維持緊急助成金を新たに創設しています。

休業等を実施しながら従業員の雇用を守ることに努力している企業に対して、国の助成金に県が上乗せ助成する支援策です。「全国初」の仕組みによります。

【国の助成金】 中小企業・休業手当の4/5、大企業・2/3

【助成措置】 休業手当の1/10 (1社当たり限度額100万円)

**平成21年度予算を解説します**



(2) 中小企業の経営安定  
 (資金繰りの支援)  
 今回の経済危機は金融危機から始まっている。経営安定資金について、融資枠を合計50億円拡大(2月補正20億円拡大、当初350億円拡大)している。  
 年度末と新年度における中小企業の資金繰りに支障がないよう万全の体制が必要で、これは適切な予算であらう。ただ、信用

保証協会の保証が100%ついているため、資金が新たな貸付に回らず、銀行プロパーの貸付に置き換えられ、中小企業に届くよう指導していく必要がある。

「ふるさと消費」元氣フェアの開催  
 県内経済の活性化という観点から、県内消費を下支えするた

め、新年度から「ふるさと消費」元氣フェアの開催費用が提案されている。  
 新年度早々から、県内各地において、商工会議所等が企画・実施する、ふくいの特産品等を販売するフェアを県が支援するものである。県も、全国植樹祭に合わせて福井駅周辺で大規模なデパート、物産展を開催することとしている。

(3) 県内経済の活性化  
 【県単独事業の増加】  
 公共事業については、久々の伸びである。経済・雇用対策としての上積みを行い、当初予算と2月補正予算を合わせて前年度を上回る規模(事業費ベースで4%増)を確保している。特に、県単独事業については、約26億円、30%の増となっている。  
 事業の内容としては、橋梁の耐震や塗装等の予防修繕工事、河川の浚渫、農業用排水施設の補修等が前倒しで行われる。

(4) 県民生活の安心確保  
 【安全・安心】  
 学校施設等の耐震化の促進については、県立高校、小・中学校などの耐震補強工事が提案されている。  
 さらに、信号機について、ドライバークルから見えやすいLEDに変える工事を行うほか、JR武生駅の新たな高架橋の設置、エレベータ等の改修が計上されている。

【園芸・畜産の元氣回復プロジェクト】  
 ター)のオープンや子どもたち人気の高いテラノサウルスの発掘現場を館外に再現し、実際の発掘の雰囲気を感じられるようにする。  
 また、夏休み期間中は毎日、名古屋から博物館への恐竜ラッピングバスを走らせる。観光の恐竜頼みますます強くなってきた。首都圏での誘致にも力が入っている。首都圏から福井への直通専用列車を運行する予算が見える。三國や芦原、嶺南など県内には優れた観光資源が埋もれている。これらを積極的に開発する仕組みも不可欠である。県内観光地整備の投資も必要ではないだろうか。

【福井型カーボンオフセットの展開】  
 また、企業などでは、自ら排出するCO2の量に応じて算出した資金を、社会貢献の一環として、地球温暖化の防止に役立て「カーボンオフセット」が広がっている。今回、県主催の大規模イベントの際の使用電力量に伴い発生するCO2排出分について、オフセット資金300万円が計上されている。

新たな計画(観光・農業・環境)の実行

(1) 新たな観光・農業・環境の推進  
 県は今年度、観光、農業、環境の3つの新しい計画を策定する。計画を進めるための予算が計上されている。

(2) 新たな農業・農村再生計画の推進  
 「ふくいの農業・農村再生計画」について、策定は最終段階。福井県の農業については、稲作が盛んである一方で、園芸や畜産の産出額が小さいアンバランスな構造となっている。  
 米の国内消費が低迷を続ける中で、今後、農業産出額を上げるためには、経営感覚をもったプロフェッショナル農家の育成とともに、福井米のブランド価値の向上、環境に配慮した園芸畜産へのこ入れ、観光との連携が必要となる。

(3) 守り育てる福井の環境  
 【太陽光発電の設置促進】  
 住宅用の太陽光発電について、18年度に廃止された県の補助制度が復活している。議会の強い要望に押されたものである。県が最大15万円を助成することで、国や市町の助成とあわせて最大48万円(前助成と同額)の助成を受けることができる。

全体の感想

世界大恐慌と言って過言でない状況下での、雇用対策、経済対策の財政出動を余儀なくされた積極予算となっています。  
 しかし、税収は大きく減収し綱渡りの財政状況となります。  
 景気対策の名の下に、目先の痛み止め効果しか発揮できなければ、赤字を増やすだけで、将来の負担、福祉対応など大変なことになります。

集落の活性化対策として

また、中小の建設業者の景気対策として効果があるとして、わが会派が要望していたものが取り入れられたものである。入札制度の見直しとも

「恐竜博物館」の入館者数は、20年度は年間約40万人となる見込み。新年度は、22年度の開館10年に向けて展示内容を充実させるため、「恐竜映画館(タイノシア

「観光営業部の新設」だけでなく、従来の、縦割り事業別予算の積み上げから脱却して、次のステージを予測した「ビジョン」を提唱し、めざす方向をきし示す力強さが求められます。

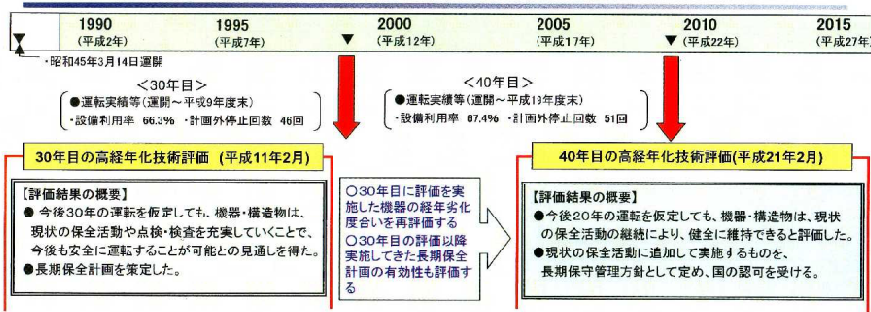
原発はいつまで運転可能か

# 敦賀1号機40年超えに挑む

どこで歯止めをかけるのか

## 高経年化対策

### 敦賀1号機 高経年化技術評価と長期保守管理方針の概要



【評価結果の概要】  
 ●今後30年の運転を仮定して、機器・構造物は、現状の保安活動や点検・検査を充実していくことで、今後も安全に運転することが可能との見通しを得た。  
 ●長期保全計画を策定した。

○30年目に評価を実施した機器の経年劣化度合いを再評価する  
 ○30年目の評価以降実施してきた長期保全計画の有効性も評価する

【評価結果の概要】  
 ●今後20年の運転を仮定しても、機器・構造物は、現状の保安活動の継続により、健全に維持できると評価した。  
 ●現状の保安活動に追加して実施するものを、長期保守管理方針として定め、国の認可を受ける。

一方、中部電力は、美浜1号機より6年あるいは8年後につくられた浜岡1、2号機を停止し、新たに6号機を新設するというリプレイス計画を決定しました。  
 本来、原発は30年運転を前提に

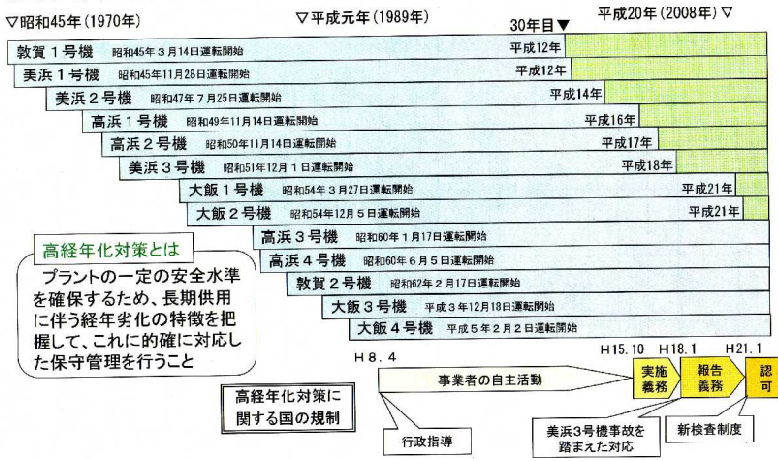
西電力美浜1号機は、40年を超えて運転を継続するかどうか、関西電力が11月末までに判断することになっています。

最も古い日本原電敦賀1号機は来年中の運転終了が決まっています。ところが、3、4号機の増設計画が耐震安全性の問題で見込みより遅れていることから、先般、日本原子力発電は、2010年以降も運転継続する方針であることを県に伝えました。また、関西電力美浜1号機は、40年を超えて運転を継続するかどうか、関西電力が11月末までに判断することになっています。

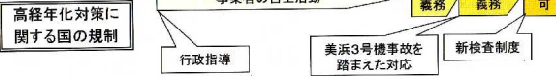
本県の運転中の原子力発電所13基のうち、6基が運転から30年以上経過した高経年化炉であり、今年中には、大飯1、2号機が加わり8基となります。  
 最も古い日本原電敦賀1号機は来年中の運転終了が決まっています。ところが、3、4号機の増設計画が耐震安全性の問題で見込みより遅れていることから、先般、日本原子力発電は、2010年以降も運転継続する方針であることを県に伝えました。また、関西電力美浜1号機は、40年を超えて運転を継続するかどうか、関西電力が11月末までに判断することになっています。

## 県内原子力発電所の運転状況

- 運転中の県内原子力発電所13基のうち、6基が高経年化プラント(平成21年度では8基)
- 全国の原子力発電所55基のうち、17基が高経年化プラント(平成20年末)



高経年化対策とは  
 プラントの一定の安全水準を確保するため、長期供用に伴う経年劣化の特徴を把握して、これに的確に対応した保守管理を行うこと



つくれたるものです。まだ使えるからと、運転期間を次々と延長していつまで本当に大丈夫なのか、事業者の経営的な利害が優先され、安全面がおろそかにされることになってはなりません。事業者任せで、判断をゆだねるのではなく、県が主体性を発揮してきちんと検証する必要があります。

現在、国内で40年を超える運転をしている原子力発電所は、全国の原子力発電所の運転に大きな影響を与えます。我が国においては、原子力発電所の運転年数についての法的制限はなく、事業者の経営判断に委ねられているのが現状であるが、地元としては、高経年化プラントがいつまでもなほ崩壊的に運転継続されることを不安に思う県民がいるのも事実である。

「もんじゅ」の運転再開がまたもや延期されました。今回は再開時期すらも示されませんでした。工程変更はこれで4回目であり、運転再開には慎重論も聞こえてきますが、いつまでもなく、「もんじゅ」は国の核燃料サイクルの中核を担う施設であり、国のエネルギー政策に位置づけられている大変重要なプロジェクトであります。確かに今回の行程変更は、度重なるナトリウム検出器の誤警報や排気ダクトを長年点検すらしていなかった原子力機構の怠慢が原因であり、国に強く求めるべきと考えます。

「もんじゅ」の運転再開がまたもや延期されました。今回は再開時期すらも示されませんでした。工程変更はこれで4回目であり、運転再開には慎重論も聞こえてきますが、いつまでもなく、「もんじゅ」は国の核燃料サイクルの中核を担う施設であり、国のエネルギー政策に位置づけられている大変重要なプロジェクトであります。確かに今回の行程変更は、度重なるナトリウム検出器の誤警報や排気ダクトを長年点検すらしていなかった原子力機構の怠慢が原因であり、国に強く求めるべきと考えます。

## もんじゅの運転再開がまた延期。

屋外排気ダクトの問題が明らかになったのは昨年9月であり、原子力機構が原因対策を取りまとめたのは本年1月である。原子力機構と国(原子力安全・保安院)との間で様々なやりとりはあったと思うが、時間がかかりすぎており、もっと迅速な対応が必要です。また、経年劣化が進むことにより、これと同じようなトラブルがまだ他にもあり、これまでの国の検査でも見逃されているのではないかと心配する声もあります。

屋外排気ダクトの腐食孔の原因・対策として、原子力機構は、当面の短期的対策として肉厚が薄い部分を鋼板で補強し、運転再開後、40%出力の運転までにダクト全てを交換するとしているが、安全の面でも、経済的合理性の面でも、最初から恒久対策を講じるべきだと思えます。

今後、もんじゅの運転再開に向け、県民の不安を払拭するため、国は、トラブルが起こってから検査するというのではなく、原子力機構が見逃ごしてしまような点を前もって、先回りして、改善を指導する予防対策を一層充実させる必要がある。国に強く求めるべきと考えます。

今後、もんじゅの運転再開に向け、県民の不安を払拭するため、国は、トラブルが起こってから検査するというのではなく、原子力機構が見逃ごしてしまような点を前もって、先回りして、改善を指導する予防対策を一層充実させる必要がある。国に強く求めるべきと考えます。

今後、もんじゅの運転再開に向け、県民の不安を払拭するため、国は、トラブルが起こってから検査するというのではなく、原子力機構が見逃ごしてしまような点を前もって、先回りして、改善を指導する予防対策を一層充実させる必要がある。国に強く求めるべきと考えます。

福井県中小企業振興条例を決議します。

産業版の地産地消推進条例です。

米国に端を発した世界的な金融危機、原油原材料価格の高騰の影響などにより、我が国経済は危機的な状況に置かれています。

その余波は、すでに県内企業にも広く及んでおり、今まさに効果的な対策が必要とされています。特に県内企業の99%を占める中小企業は、非常に弱い立場にあり、ここをしっかりと守ることなくして、福井県の今後の発展はあり得ません。

本県の経済発展の歴史は、すなわち中小企業の発展の歴史であり、中小企業の経営が安定し向上していくことが、そのまま雇用の拡大や県民生活の向上へとつながっていくものです。

各都道府県において、これまで14道府県で中小企業振興関係の条例を制定し、中小企業を支える対策に乗り出しているところがあります。

21世紀を夢と希望を持てる福井県に変えていくためには、行政だけでなく、県民が一丸と

なっており、本県議会として、厳しい経済情勢の中、頑張っている中小企業をしっかりと支えるという強い決意のもと、中小企業振興条例を議員発議することで支援をしていきたいと考え、議員発議で条例を制定します。

この条例は、中小企業の振興を県政の重要課題と位置付け、中小企業の振興を図るために、県の責務、基本方針等を明らかにすることにより、中小企業の振興に関する施策を総合的に推進し、本県経済の活性化および県民生活の向上に寄与することを目的としています。

そして、この条例の目的を達成するために、県は、「中小企業者の製品開発および販路開拓の支援」など10項目の基本方針に基づき、中小企業振興施策を講ずるものとした。

さらに、財政上の措置や議会に対する年次報告など実行性のある条項も盛り込んでいます。

議員立法の条例は通常6本目に当たります。

修行 是これ 日々

生き甲斐を失った時には 佐々木閑 (花園大学教授)

生き甲斐を失った時には人は、立派な脳があるお陰で、かえって苦勞することも多い。考えなくていいことまであれこれ考えて、憂い顔でため息つく動物は、ホモサピエンスだけである。大きな脳は、悩み事では切れそう。だがそれでも、私たちが絶望することなく毎日を通り越せるのは、数々の悩みにも耐えることのできるなにか素晴らしい「生き甲斐」を持っているからだ。

仕事、子供、創造的活動、あるいは人助け。なんにしろ、「毎日少しずつ先に進んでいる」という充足感や期待感が「生きるパワー」になる。だから、もしそれを一生持ち続けられるなら万々歳だ。

しかし、その大事な生き甲斐が消えてしまふことがある。突然の災厄や身体の衰えのせいで生き甲斐を奪われると、人は絶望の淵に沈みそうになる。そんな時、人はどうやって生きていくのか。

八方ふさがりの中、モノクロに沈んだ苦痛の世界を、もう一度、色鮮やかによみがえらせるためには自分が変わるしかない。それは少しずつだ。まず、自分に染み付いた世間

的価値観を捨てる。そうしないと、幸福な人たちのギャップが、いよいよ心に迫ってやりきれない。世間的な幸せは、もはや「自分の幸せ」ではないのだ。

そして、「幸せの基準」は自分のあり方だ、ということ念頭に置く。邪悪な心を起こさず、誠実に堅実に暮らす。そういう生活こそが、なによりも得難く、高潔な生き方だと思えば、生きることが価値あるものに思えてくる。「正しい心を持つこと」が生きる糧になるのだ。

この、「自分のあり方を一番の生き甲斐にする」という考えは、仏道修行の基本である。俗世を捨てて出家した修行者に、世間的な幸せはなにもない。身一つで瞑想する日々が、死ぬまで続く。その単調な、しかし誠実な毎日こそが、決して崩れることのない、一番頼りになる生き甲斐になるのだ。たとえ出家はしなくても、修行者と同じ心持ちで暮らすことができれば、必ずそこに、生きる意味が見えてくる。

サトウハチロー

小さい頃、よく詩を書いていたが、ある時それが、サトウハチローさんの目にとまると褒められた。

サトウハチローさんという、「リンリンの唄」や「小さい秋みつけた」のような、日たまりの温かさで人の心をふわりとくるむ優しい詩をたくさん書いた人だ。そんな偉い詩人が、私の詩を、「ここにこういう言葉を使っているところがいい」といって、きちんと理を通して評価してくださった。

40年以上前のことだが、思い出すと、今でも嬉しさが心に溢れる。そんな詩の才能など、もうすっかり消えてしまったけれど、それでも、立派な人に認められて、それという自信が、ずっと私の支えになっている。ただ、偉い「うまいね」とぼんやり褒められるのではなく、自分でも気付かなかった長所を、理にかなった言葉で見出してもらった時、一生涯続くほどの喜びを、人は感じるものなのだ。

釈迦は、大勢いた弟子の、一人一人の特性をしっかりと見極め、性格に応じた効率のよい修行方法

(佐々木閑 花園大学教授)



を指導していた。たとえばチユウラパンタカというお弟子さん。記憶が悪くてなにも覚えられない。修行しても全然だめ。本人もがっかり気落ちしている時、釈迦は、「無理して覚えなくてもいい。お前には別の道がある」といって、日々の掃除を勧めた。言われたとおり、毎日毎日掃除をしているうち、次第に心が澄んできて、とうとう悟りを開いてしまった。

融通のきかない、言われたことしかできないチユウラパンタカだからこそ、せつせと掃除に励むことで悟ることができた。釈迦の慈愛の目がそれを見抜いたのである。

最近はいろいろな場面面でコンピュータが幅をきかせているが、コンピュータは温かい心で人を導くことができない。いくら文明が進んでも、人を育て、生きる後押しをするのは、豊かな経験を積んだ先人の、温かくて深みのあるまなざしだ。

子供の頃、サトウハチローさんからもらった温かい思いは、釈迦が弟子を育てる「慈愛の心」につながっていたのだと、今になってそのありがたさが身にしみる。

# 新緑の気ままにトク

自分はいまこそ言う

山村暮鳥

なんてあんなにいそぐのだから  
どこまでゆかるとするのだらう  
どこで此の道が見つかるのだらう

此の生の一本みちがどこかでつきたら  
人間はそこでどうなるだらう

おお此の道はどこまでも人間とともにつき  
ないのではないか

谷間をながれる泉のやうに  
自分はいまこそ言う

人生はのろさにあれ  
のろろの蝸牛のやうであれ

そしてやすまず  
一生に二どと通らぬみちなのだからうつつ

自分で  
自分はいまこそ言う

自分はいまこそ言う

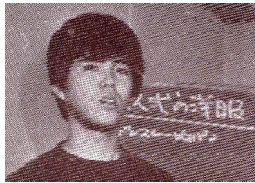
\*蝸牛=かたつむり、でんでんむし。

一月から十二月まで365日  
が書かれてある一枚のカレンダー  
を壁に張って、祭など思い浮かぶ  
定番の年中行事をそれとなく丸で  
囲んだりしたら、それだけで、今  
年が終わってしまったように思え  
て、愕然とした。

「人生の短さについて」説く人  
は、人生が短いのではな  
く、自分が取って短くし  
ているにすぎないという。

「名利につかはれて、閑  
なる暇なく、一生を苦し  
むこそ、愚かなれ」  
物や他人のために使う  
時間は多くても自分自身  
のために使う時間は極端  
に少ない。これが人生を短くして  
いる理由だという。

カレンダーを貼っただけで、  
一年が過ぎてしまったように感じ  
る生き方なんぞは、サイテー(最  
低)といわれそだ。



三國町新保に、昭和の時代の思い  
出がいっぱいあった「昭和倉庫  
館」がある。  
玄関口で、立ち話をしながら、ふ  
と流れている昭和30年後半のフィル  
ムを見ていたら、突然、亡き父親が  
出てきて、びびりした。

今年は、年明け早々、恥づか  
しながら、インフルエンザに罹  
てしまって、新年のご挨拶もまま  
ならず、自宅待機を余儀なくされ  
た。

消防の出初式や成人式も欠席さ  
せてもらった。  
ところで、年末に大掃除をして  
いたら、三國町農協の機関誌「く  
みあいだより」昭和55年9月発行  
が出てきて、なぜ、これがあるの  
か。

かと思裏紙を見たら、三國町連合青  
年団長をしていた時(23歳)の写真  
があって、農協婦人部と「新しい  
さと運動(生活改善運動)を展開  
していることが記され、「今はやり  
のモンカッターがよく似合う」と書  
かれてある。  
「20才になることを自覚するとは、  
親に高額な着物を  
買ってもらう、七  
五三のように会場  
に連れて来てもら  
うことではないは  
ずだ」などと、口  
をとんがらせてい  
たことを思い出  
す。

「消費は美  
徳」とされ、モ  
ノを粗末にし  
て捨てること  
があらわれて  
いると、成人式  
の着物を問題  
にしていた時  
代など、もはや化石時代のように  
思えてくる。



しかし、人類は、進歩したのだら  
うか。便利になることや生活が豊  
かになることが、果たして進歩な  
のだらうか、道具は便利に進歩し  
ても、道具を使う人の精神は進歩  
しているのだらうか。  
何のための豊かさだらう。精神  
が貧しくなる生活の豊かさが、人  
類の進歩であるはずがない。  
それにして、30年前の自分と  
向き合って、大きく変わったのは  
20キロほど太った体形だけだとい  
うことに気づいた。

人間の社会的欲求で重要な位置  
を占めるのは、自分に関わる人間  
係の中では、絶えず自分を大事に  
してもらいたい、認めてもらいたい、  
きたら褒めてもらいたい」という欲  
求だという。  
だがその欲求は主観的で、かつた  
いていの場合において自分を実体よ  
りも高く評価しているために、この  
世で自分に与えられる社会的待遇に  
対して、なにかと不満を持ってしま  
う。自分は十ほどの価値があるのに、  
周りには七ほどしか評価してくれない  
と不足に思うようになる。

だが伊達政宗は自分を主人公と考  
えずに、この世に客に采た、相手のこ  
好意に甘えて来ましたが、と考える  
という。お客に行くと、この飯ますくて  
食えぬとお膳をひっくり返す馬鹿は  
いない。ありがたく頂戴しますとな  
る。これはお客に行つたときの常識

である。とすれば、相手からの七分  
目ぐらいの評価もありがたく頂け  
る。そのぐらいの気持ちでこの世に  
処していけば、不平もなく、心安泰  
に暮らすことができる。つまり人の  
世が案外住みやすくなる。不満を  
持つて愚痴を言っている人生とは、感  
謝の喜びを常とする人生とは、味  
わいまでもがかわつてくる。  
(この世に客に采たと思え「伊達政宗(五常訓)ノ  
解説」谷沢永)

「や」と箱から出してもらって雛  
人形が嬉しそうだとわ」と女房が言  
うので飾った雛人形を見たのだが確  
かにそんなふうに見える。  
4年に一度の選挙のときは、ひな  
祭りどころじゃないし、年によつて  
はバタバタして、出さずじまいとな  
る。  
何年かぶりに登場した雛人形は、  
ほんのり華やかで、「はんなり」とい  
う感じである。  
3月3日は、桃の節句。娘と今年  
はひな祭りをやることにした。その  
ころには、我が家の遅咲き梅も咲い  
てくれるだろう。

わびすけの花は終わってしまっただ  
らうか、椿の開花も待ち遠しい...  
春よ来い。

「身には襦袢(ポロ)をまとい、心  
に錦を飾れ。愚者千人に諷められん  
よりも、数寄者一人に笑われんこと  
を恥ずべし。  
盛者必衰、会者定離のあわれ。  
名もなく貧しく美しく生きる  
ただひとつであることをお前もよ  
ろこべ(喜八)

「身には襦袢(ポロ)をまとい、心  
に錦を飾れ。愚者千人に諷められん  
よりも、数寄者一人に笑われんこと  
を恥ずべし。  
盛者必衰、会者定離のあわれ。  
名もなく貧しく美しく生きる  
ただひとつであることをお前もよ  
ろこべ(喜八)